

# 語り合う文学教育の会

2013年度 No.2 4月17日・文責 橋本博孝

三重例会・草分さん	-----	2
会員のみなさんから	-----	7
これからの予定	-----	8

## 新年度のスタートです！

新しい学校にかわられた方、新任のみなさん、緊張は解けたでしょうか。まわりのいろんな先生に学びながら、自分らしさの出る授業をつくっていきましょう。

みなさん、新しい子どもたちとの出会いはいかがでしたでしょうか。持ち上がられた方も、一学年進んだ子どもたちは今まで以上に頼もしく感じられたことでしょうか。

今年度も語り合う文学教育の会とともに、教材と子どもたちの発見を始めましょう。

**会費を納入された方は4月16日で57名**

**三重30名 奈良14名 全国13名**

まだ会員でない方は、どうぞ会員になってください。いろんな先生と実践を通した学び合いができます。会員はみんな対等だから、どんな疑問でも出し合えます。

会員のみなさん、例会や集会にぜひ来てください。そして、『語り合う文学教育の会』11号を読みましょう。考えたこと、感じたこと、またあなたや学校学級の様子などを知らせてください。今年は、ハガキを無駄にしないで。

## 三重4月例会 草分さんの実践報告

### 15名参加 新しい方が4名も！

4月6日は暴風雨でした。電車も止まるんじゃないかと思うほどでしたが、15名も集まりました。三重例会は今年も新鮮なスタートが切れました。

草分京子さん（松阪市）の「短歌を楽しもう ―三十一文字に込める思い―」という実践です。

三重松阪にゆかりの二人、松浦武四郎と佐佐木信綱。

武四郎は北海道調査とアイヌの人々との交流で有名です。草分さんの勤務校には、武四郎の「心せよ えみしも同じ人にして この国民の数ならぬかは」の歌が壁画になっているそうです。

信綱は、鈴鹿の石薬師生まれです。現在記念館があります。6歳から11才まで松阪で暮らしたそうです。光村教科書では、4年下の「声に出して楽しもう」に

ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

があります。5年では「季節の言葉 春から夏へ」に「夏は来ぬ」が載っています。1番だけ紹介します。ご存知の唱歌です。

卯の花の 匂う垣根に／時鳥 早もきなきて／忍音もらす 夏は来ぬ

小学生が古文を学ぶことについてはいろんな意見があります。とりわけ、教材としては短歌が使われることが多いので、古語の困難さに加えて歌語の制約もあり、学習は簡単ではないでしょう。

近代短歌は漢語でもカタカナの外来語でも使いますが、古典的な短歌（和歌）は基本的にやまと言葉しか使いません。漢字で書いてあったら訓読みすればだいたい正解です。雲霧は「くもきり」で「ウンム」と読めば俳諧の世界だと古い本に書いてあります。

わたし（橋本）が気がかりなのは、子どもが学ぶ上で難しいということがかえって古典嫌いにしてしまわないかということと、もう一つは教える側の課題もあるのですが、日本語の表現は古語の方が美しいのだと思いこませがちなことです。それは現代日本語の口語がこれからさらに開拓していこう表現の豊かさを閉じてしまいそうだからです。みなさんはどう考えますか。

もちろん草分さんの実践は、そういうことではありません。

さて、信綱と武四郎にはこんな出会いがあったそうです。草分さんのレポートからです。

信綱は1882年11才で父に伴われて上京した際、神田五軒町の家で病臥中の武四郎を

訪れている。信綱は武四郎の目の前で数首の歌を書いて見せた。武四郎はそれを見て、「私は16の年に伊勢を出て、日本国中をまわり、北海道をあまねく探検した。いばらの中や雪の上に寝たりして、一生を北海道にささげたと言うてよい。人間は、一つのことによって一生をささげるべきものだ。お前は、一生を歌にささげるつもりで勉強しなさい。きょうのことばをよく覚えておくように。」

と言った。

武四郎はその6年後、1888年に没する。

信綱は、2年後13才で東京大学古典講習科に入学し、17才で卒業している。晩年、北海道を訪れた時には、武四郎をしのぶ歌をつくっているし、そのころの書簡からは武四郎との出会いを忘れていなかったことがうかがえるという。1963年没。

佐佐木なのは、佐々木の「々」は漢字ではないと信綱が嫌ったからだそうです。

草分さんは、これまで地域のさまざまなできごとや史実を教材にしてきました。古くは戦跡、数年前は食肉センター、そして松永武四郎の生涯も版面にしています。今回は信綱と武四郎という松阪ゆかりの二人の接点から、短歌をとりあげました。

6年生の教科書には江戸末期の歌人橘曙覧（たちばな・あけみ）の「たのしみは…」の歌が載っています。最初にある

たのしみは妻子むつまじくうちつどひ頭ならべて物を食ふ時

でもよくわかりますが、子どもたちのくらしの実感からはちょっと遠い歌ばかりです。それから、妻子は「サイシ」ではなく「めこ」です。和語だからです。頭は「あたま」ではなく「かしら」です。「かしら」の方が雅語的だからです。

このことばづかいは江戸期の歌だから当然ですが、わたしは、今日の子どもたちにそれをなぞらせるよりは、例えばまるでうまくないですが、

たのしいな

家族そろって

晩ごはん

みんなの頭（あたま）が並んでる

というような口語自由詩表現に向かわせた方がいいのではないかと考えています。

草分さんも文語表現をさせようとは思ってもいません。クラスでは、

たのしみは バレーが終わり 家にある アイスを食べて つかれをいやす

などの作品が生まれましたが、「私の楽しみ」情報交換以上にはならなかったようです。子どもたちは「日記の方が分かりやすい」と言っています。

ところが、佐佐木信綱の人物を知り、彼の歌や歌についての考え（歌は広く深く、おのがじしに）を学んでいくうちに、子どもたちは自分の本当の思いを突き詰めて考えていくようになります。自分の深いところにある願いに歌の形を通して気づいていくようです。

とりあげた信綱の歌は、

日本語 いく千万の中にして なつかしきかも 「ふるさと」といふは

日本語は（やまとことば）、いく千万は（いくちよろず）です。

この歌の上の二句に子どもたちが付けました。

日本語 いく千万の中にして 祖父に届けたい 弟の声

この子は、「弟が生まれる前に祖父が亡くなったから、弟をおじいちゃん知らないから、聞かせたかったことを思って書いた」と言っています。

日本語 いく千万の中にして いつも言えない 母への思い

と付けたナミさんは、お父さんがいません。卒業式に渡す「親だけに見せる手紙」を書いたとき、ナミさんはこう書いていました（親だけに見せる手紙だから、担任である草分さんももちろん事前には見ません。ほとんどの子どものは何を書いたのか草分さんも知らないままです。ナミさんのお母さんが式後に見せてくれたそうです）。

きょうは私の卒業式です。小学校を2回も転校したりして友だちを作るのは大

変だったけど、お母さんがいたからがんばれました。学校をけっこう休むことが多くて、でも、いつも仕事を休んでいっしょにいてくれたことは、とてもうれしかったです。なかなか口に出して言えないけど、お母さんが大好きです。お父さんがいなくてさみしいと思ったことはないよ。私にはお母さんだけでじゅうぶんだよ。お母さんにいっぱい愛情をそそいでもらったから。いつもありがとう。

本当はいいことが悲しいのかもしれませんが、でも、それを言うと母がつらいだろうということを知っているのでしょう。そういうゆれ動く思いのぎりぎりの表現として、このナミさんの歌が生まれたのだと感じました。

次の信綱の歌は、これです。

願わくは われ春風に 身をなして 憂ひある人の 門を問はばや

草分さんは佐佐木信綱記念館でこの歌を知り、すっかり感激して、学級だよりの名前を今年は「春風」にしたそうです。春風になって、悲しみを抱いている人のところへ飛んで行きたい、どうしたの？と問いかけたい…。

子どもたちには現代かなづかいにして提示し、「願わくは」に付けさせました。

願わくは 今年阪神優勝し 家や大阪 喜びの渦

というような楽しいのもあります。班で話し合う中で、祖母に対して「死なないでほしい」という願いを書いた子に、他の子から「生きてほしい」の方が前向きでいいという意見が出されたりしました。

願わくは 祖父と祖母が 健康で 長生きをして 元気で過ごす

この歌を作ったマミさんには両親がいません。祖父母と暮らしています。おばあさんはリウマチで手足が自由には動かさせません。

ふだんはそのことは絶対に言いません。草分さんがうっかり「お家に帰って、お父さんお母さんに…」という言い方をしてもただ黙っているそうです。友だちともめ事をよくします。休日は武四郎記念館にいて、誰か来るのを待っていることが多いそ

うです。そんなマミさんを知って読むと、普通に祖父母の健康を願っているように見える歌の背後にあるいろんな思いが伝わってきます。

願わくは 一度でもいい 本当の父親と会って 話してみたい

ユキさんの歌です。ユキさん自身はこう書いています。

この歌は、お兄ちゃんが生まれた時は本当のお父さんがいて、私を生んだ時は本当のお父さんがいなかったから、前のお父さんの顔は一度も見たことがないから、一度でもいいから本当のお父さんの顔が見たい、話してみたい、という気持ちで書きました。母子手帳を見たときに、父のところに前の父親の名前が書いてあったり、前のお父さんの写真とかがあって、りこんしていることが分かって、弟と血がつながっていないってということとか、前のお父さんのこととか思うと、会いたくなって、一回だけでもいいから会ったり話したりしてみたいという意味で書きました。

こんなこと書かなくてもいいよと言いたい、草分さんはそう思ったそうです。

ユキさんは、その後の草分さんとお家の方との共同のとりくみの中で、こんなお母さんへの手紙を残して卒業していきました。

私は、お母さんにお父さんに本当に感謝することがあります。6年生で5・6月に短歌を学びました。そして私が書いた短歌はこれです。

「願わくは一度でもいい本当の父親と会って話がしたい」

この短歌は私は本当のお父さんに会ったことが一度もないので、一度だけでも会いたいと思いました。でも、本当のお父さんだけが好きというわけじゃありません。本当のお父さんも好きだけど、私にはずっといっしょにいてくれたお母さんとお父さんが大好きで一番です。お母さん、一生けんめい私を育ててくれてありがとう。お父さん、いつも笑顔にさせてくれてありがとう。そんなやさしくしてくれた両親がユキは大好きです。大きくなれたのは両親のおかげです。本当にありがとう。中学校に行っても元気に明るくがんばります。

クラスは、このあと武四郎の歌を学びますが、それは草分さんが作られた「旅衣 — 六年生が学んだ武四郎さんの和歌」を読んでもください。

こうやって見てくると、草分さんのとりくみは決して「いい短歌」を作らそうとしていないことが分かります。草分さんは、願いを焦点化させることで子どもたち自身に気づかせようとしています。そのことに短歌というもの、とりわけ佐佐木信綱と松浦武四郎の歌の力が、生きて働いたのだと思います。

藤原先生からは、万葉から古今・新古今に至る日本の歌の変遷を学びました。例会の討議の様子も紹介したかったのですが、今回はここまでにします。

三重例会は今年もいい出発ができました。

## 会員のみなさんから

### ☆浜本純逸さん（鳥取）☆

『語り合う文学教育』第11号を拝受。研究論文も実践報告も、全体に文章「ことば」に即して、実証的な報告になってきていることに感心。多くの教師の共有遺産になります。ありがとうございました。

### ☆奥山能隆さん（三重）☆

昨年度は大変お世話になりました。本当に勉強になった一年でした。勤務校で二年目となります。学んだことを活かして充実した一年にしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

### ☆丸矢通生さん（奈良）☆

機関誌11号、ありがとうございました。小生は定年後の嘱託の仕事も終わり、教育とは無縁となりましたが、貴誌の理論編は読んで脳の活性化に役立っています。

活性化といえば、学校定年後に始めた俳句作りは、地方新聞に毎週投句し、今では計571句の作品が載っています。

その他、借畑で野菜を作り、ボランティアをし、自治会の役員をし、村の老人たちと週2回のグラウンドゴルフを楽しみ、と結構出かけています。

出かけると言えば、3月30日に大阪城から桜宮まで花巡りをしました。1万3千歩、カウントしました。

目標の 歩数を超える 花巡り

貴会のご発展と先生のご多幸を祈念しています。

### ☆馬場重行さん（山形）☆

この度は『語り合う文学教育』第11号をお送りいただきありがとうございます。充実した誌面でたくさんのことを学べそうです。

橋本さんの「物語の「学習の手引き」を考える」には共感します。特に批判の部分が大切に、文学教育が常に注意すべき点だと思います。お礼迄、不尽。

### ☆武村俊志さん（三重）☆

読みました。藤原先生の論文、やあ～心の底にストーン、と落ちました。「一つの花」「モチモチの木」は見事。「ちいちゃんのかげおくり」、ジーンとききました。藤原さんの文学に対するエキスの粒が飛んできました。良かった。

近況。退職しました。やったー、これで遊べるぞ！ どうもそうならない。

学びの共同体のバイザーとして全国をまわりたいかったが…！

今は、県の学力向上アドバイザーの仮面をかぶり生きています。

車の免許を取る予定です。

これまでにハガキを下さった順に紹介しました。みなさんもよろしく。

## これからの予定

### ☆4月27日（土）奈良例会（サ連協集会の分科会として行います）

午後2時～ 奈良教育大学附属小学校 「物語の授業をつくる」

橋本の提案をもとに論議します。1学期教材をみんなで考えましょう。

### ★5月12日（日）日文協国語教育部会5月拡大例会・シンポジウム（東京）

### ☆5月25日（土）三重例会 午後2時30分～ 三重大学教育学部

実践報告「初雪のふる日」（安房直子）・原田聡子さん

### ★6月 2日（日）午後1時～ 三重民教連合同集会 アスト津

### ☆6月22日（土）三重例会・中西祐司さんの実践報告

### ★8月10・11日＝日本文学協会国語教育部会夏期研究集会（東京）

### ☆8月17・18日＝語り合う会夏期合宿（三重志摩市阿児アリーナ）